

2020年5月31日
宮崎中部教会ペンテコステ礼拝
牧師 乾元美

ヨエル書 3章 1～5節
使徒言行録 2章 36～42節
「主の招き」

<教会>

今日は、ペンテコステです。イエスさまが十字架に架かって死なれ、三日目に復活し、天に上げられた。その後、弟子たちに聖霊が降った日です。

ペンテコステは、「教会の誕生日」とも言われます。それは、どうしてなのでしょう。

ペンテコステの日。聖霊を受けた弟子たちは、神さまの御業について語り始めました。神さまが旧約聖書の時代からご計画され、イエスさまによって成し遂げられた、わたしたちのための救いの御業についてです。

今日読まれた聖書箇所冒頭の 2章 36節は、イエスさまの弟子の一人のペトロが、聖霊を受けて語った、2章 14節からはじまる説教の最後の部分です。そこにはこうありました。

「だから、イスラエルの全家は、はっきり知らなくてはなりません。あなたがたが十字架につけて殺したイエスを、神は主とし、またメシアとなさったのです。」

十字架で死なれたイエスさまが、わたしたちの主となり、また救い主となられた。

このペトロの説教を、多くの人々が耳にし、多くの人々が信じて洗礼を受けました。41節には「ペトロの言葉を受け入れた人々は洗礼を受け、その日に三千人ほどが仲間に加わった」とあります。ここに、イエスさまの救いを信じる群れ、「教会」が誕生したのです。

「教会」というのは、建物のことを指すではありません。また、「教える会」と書きますが、講演会でもありません。「教会」と訳されたギリシア語のもとの意味は、「召し集められた者の群れ」という意味です。神さまが招き集めて下さった人々の群れが「教会」です。

聖霊が降り、イエスさまの救いの出来事が語られた。これが、神さまから人々への、救いへの招きです。そして、イエスさまの救いの御業を信じて、洗礼を受けて救いに与る者たちが興された。人々が招きに応じて、イエスさまの救いのもとに召し集められた。

これが、聖霊によって起こったペンテコステの出来事であり、教会の誕生日、と言われるのです。

このペンテコステで誕生した教会に、今、この 2000 年後の宮崎のわたしたちの教会も繋がっています。

ペンテコステの日誕生した教会は、今日の聖書箇所の最後に書かれていたように、「使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった」とあります。使徒の教え、つまり御言葉の説教、そして相互の交わり、パンを裂くこと、つまり聖餐、そして祈

ること。教会の礼拝で、今も行われていることです。

イエスさまを信じた人々は、洗礼を受け、聖霊によってイエスさまを頭とする一つの体となります。そして、共に御言葉に養われ、交わり、祈り合いながら、イエスさまが再び来られる日を待ち望みつつ、共に歩んで行くのです。

そして、この教会の群れの歩みを通して、礼拝を通して、また、神さまは御言葉を語り、新たな人を招かれます。聖霊を送り、洗礼によってイエスさまの救いに与らせて下さいます。一人の罪人を、神の子として、イエスさまの体に結び合わせて下さるのです。

このようにして教会は成長し、救いの御業が前進していきます。ここにいるわたしたちも一人も例外なく、聖霊の導きのうちに、教会の礼拝で御言葉を聞き、教会で洗礼を受け、救いへと招かれたのです。

そして 39 節には、この救いを約束して下さる神さまの招きのことがこう書かれています。

「この約束は、あなたがたにも、あなたがたの子供にも、遠くにいるすべての人にも、つまり、わたしたちの神である主が招いてくださる者ならだれにでも、与えられているものなのです。」

救いの約束は、「神である主が招いてくださる者ならだれにでも、与えられている」と言われています。だから、わたしたちも神さまに招かれて、救いの約束を与えられたのです。

では、神さまはどのような者を招いて下さるのでしょうか。

<主が招いて下さる者>

神さまの招きを受けるのは、立派な人、すばらしい人、聖書をよく分かっている人、誰もが尊敬するような人、という訳ではありません。そのような条件を満たしたら招かれる、というのではないのです。

今日の聖書箇所では、ペトロはまず「この約束は、あなたがたにも」と言っています。救いの約束は、まず、今、わたしの説教を聞いた、目の前にいるあなたがたに与えられている。あなたがたが、神に招かれているのだ、と言っています。

では、この「あなたがた」。当時、この時、ペトロの説教を今聞いた人たちは、どんな人たちだったのでしょうか。

彼らはエルサレムに住む、ペトロと同じユダヤ人です。この、同胞の彼らに向かって、ペトロは説教の最後にこう言っていました。「あなたがたが十字架につけて殺したイエスを、神は主とし、またメシアとなさったのです。」

ペトロは、今、目の前の同胞たちに、あなたがたが、神の子イエスを十字架につけて殺した。あなたがたが、罪のない人を殺した。神さまに選ばれたイスラエルの民であるのに、神さまのご計画を信じず、神さまの御心に背き、神さまの愛を受け入れず、神さまに遣わされたイエスさまを拒否し、侮辱し、虐待し、殺した。それは、あなたがただ。そう言って、彼らの罪を指摘したのです。

そうです。神さまが招いて下さるのは、神さまに背き、逆らい、神さまを侮辱するような、そんな罪に捕らわれた「あなたがた」なのです。自分の罪にも気付いてさえいなかった、そんな「あなたがた」なのです。

そして、それはわたしたちも同じです。わたしたちも、この「あなたがた」なのです。

神さまは、わたしたちをお造りになり、命を与え、養い、守って下さる方です。でも、この神さまの愛に気付かず、神さまの恵みを忘れ、人は、神さまに対して大変な罪を犯しています。別のものを愛し、神さまを捨て、神さまを悲しませ、怒らせながら、自分の思いのままに生きているのです。

それでも、神さまは、わたしたちをお見捨てになりませんでした。わたしたちがまた、神さまの愛を知り、罪を赦されて、神さまと共に恵みの内に生きる者となるために、神さまは御子であるイエスさまを、わたしたちの世に遣わして下さったのです。イエスさまを通して、神さまの愛を、罪の赦しを、示して下さいました。

そのためにイエスさまは、わたしたちの罪を一身に背負い、ご自分の十字架の血によって、わたしたちの罪を贖って下さいました。わたしの罪のために、この方は死なれたのです。

ペトロは語ります。「あなたがたが十字架につけて殺したイエスを、神は主とし、またメシアとなさったのです。」「神さまに逆らい、イエスさまを十字架につけたあなたたちの罪を、神さまはこのイエスさまの血によって、赦すと約束して下さいました。神さまは、イエスさまを、わたしたちを罪から解放し、恵みの内に支配して下さいました。わたしたちを罪から救い出す救い主として下さったのだ。」

ペトロは、彼らの罪を厳しく訴えました。しかし、その罪を超えて、神さまは愛して下さい、救いのご計画を実現して下さい、あなたがたをご自分のもとへ招いて下さるのだ、と語ったのです。

この説教の時、ペトロは同胞のユダヤ人たちを責める気持ちで、お前たちの罪はとんでもないんだと、上から視線で語ったのではありません。

ペトロもまた、イエスさまは「神の子」だと告白したのに、神さまから遣わされた方だと教えられていたのに、イエスさまが逮捕された時には、これまでの親しい関係を徹底的に否定し、イエスさまを「知らない」と三度も言いました。そして、従うのをやめ、逃げ去ってしまったのです。ペトロが指摘する人々の罪は、ペトロ自身が一番よく知っている罪です。イエスさまを裏切り、見捨て、十字架につけて殺した。神さまの愛を受け入れず、拒んで、退けた罪人は、他にもないわたしだ。そう思いつつ語っていたに違いないのです。

しかし、ペトロは、復活のイエスさまにお会いしました。十字架の死から甦り、罪の贖いを成し遂げて下さり、死をも打ち破られたイエスさまが、再び出会って下さったのです。

イエスさまは、裏切った弟子たちの、ペトロの罪をも担って下さり、滅びの死を受け、

そして甦って下さいました。

復活のイエスさまは、「あなたの罪はわたしが引き受けたから、あなたの罪を赦そう。あなたの滅びの死はわたしが引き受けたから、あなたを新しい命に生かそう。わたしと共に歩みなさい。」そう言って、裏切り、逃げ去り、見捨てたペトロと出会い、罪を赦し、ご自分の復活の命へと、恵みのもとへと、招いて下さったのです。

そして今、聖霊を受けたペトロは、復活し天に上げられたイエスさまと共にあって、救いの出来事を力強く証しし、この赦しの恵みを語る者とされているのです。

ペトロは確信をもって、この神さまの愛の確かさを、罪の赦しの確かさを証言し、罪人であるあなたがたも、この復活の主のもとに招かれているのだと、語っているのです。

<どうすればよいのですか>

37 節には、「人々はこれを聞いて大いに心を打たれ」たとあります。「心を打たれた」というと、感動した、というような意味に思いますが、厳密に訳すと、これは「大きく心を刺し貫かれた。激しく心を抉られた」というような言葉です。

自分の罪の現実を知り、あまりのことに心が打ち砕かれ、血が出るほどに刺され、抉られるような思いをした、ということです。人々は、心を抉られ、「兄弟たち、わたしたちはどうしたらよいのですか」と言いました。

自分の罪の大きさと、そして神さまの救いを知ったとき、わたしたちはどうしたらよいのでしょうか。

ペトロは答えました。「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。」

ペトロが教えたのは、神さまが与えて下さる救いを、受け取りなさい、ということです。それが、悔い改め、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただく、ということです。

洗礼は、イエスさまの十字架の死と復活によって成し遂げられた罪の赦しを信じ、差し出された恵みを受け取ることです。そこに聖霊が働いて下さり、イエスさまと一つに結ばれ、罪の赦しと、新しい命と、復活の約束にあずかるのです。

すでにイエスさまによって、救いの御業は成し遂げられました。その、すでに赦された自分の罪を見つめ、神さまのもとに立ち帰り、罪の赦しと命を受け取るのです。この救いへと、神さまは招いて下さるのです。

そうして、わたしたちはイエスさまを「主」とし、イエスさまのものとされて、神さまの子とされて、神さまと共に歩む者となります。賜物として、恵みとして、わたしたちに聖霊が与えられ、天のイエスさまと一つとなって歩いていく恵みが与えられるのです。

わたしたちは、ご自分の命を与えて下さったイエスさまに、今度はわたしたち自身をお献げして、イエスさまと一緒に生きていく者とされるのです。

<主の招き>

わたしたちも、この救いに招かれました。このペンテコステから始まった教会の歩みの中に、神さまの救いの歴史の中に、今わたしたちも連なっているのです。

聖霊によって、お一人のイエスさまに結ばれたわたしたちは、共に集い、この地上の教会で、イエスさまの体として存在し、神さまの恵みを人々に証しして歩みます。福音を宣べ伝え、交わり、聖餐にあずかり、祈りながら、神さまが救いを完成させて下さる、終わりの日に向かって、共に歩み続けていきます。

そしてこの群れに、また神さまが一人を招き、救いの御業を行なって下さいます。救いの御業を、前進させて下さるのです。「あなたがたにも、あなたがたの子供にも、遠くにいるすべての人にも」神さまはこの救いの約束を実現しようとしておられます。

そのために用いられているのはわたしたち、イエスさまの体であるこの教会なのです。

召し集められた者たちが集って礼拝し、主の御言葉を聞き、互いに交わり、聖餐にあずかり、共に祈ることは、わたしたちの信仰生活の中心です。

そして、この礼拝において、御言葉が語られ、心を刺し貫かれ、洗礼へと招かれる人が起こされるのです。神さまに招かれ、わたしたちが集ってささげる心からの礼拝が、神さまが救いの出来事を行なって下さる場所です。そしてまた、この群れに一人の神の子が加えられ、一つのキリストの体となって共に礼拝しつつ歩んでいくのです。

この礼拝をささげることが出来ない期間は、本当に苦しみの時であり、試練の時でした。それでもわたしたちは、聖霊を受け、イエスさまに確かに結ばれているからこそ、会えなくても、集えなくても、教会の交わりの中に確かに置かれていること。イエスさまの体の一部分として、互いに繋がっていること。イエスさまといつも共にいることを、信じる事が出来るのです。

また、このような状況ではなくても、病や、老いや、さまざまな事情で、礼拝に集うことが出来ない兄弟姉妹が多くおられます。でも、わたしたちは聖霊によって集められた一つの群れ、イエスさまの結ばれた一つの体であり、いつも一つの交わりにいるのです。集えなかったとしても、イエスさまにあって、また共に一つにされている兄弟姉妹にあって、一人一人が皆、この礼拝に連なっているのです。分かちがたく結ばれているのです。

わたしたちは聖霊によって、いつでも、どこでも、天におられるイエスさまと、一つとなって共にあり、兄弟姉妹と共に、一つの体に連なって生きています。

ペンテコステの日、聖霊が降り、教会が誕生した日。共に神さまに招かれた罪人であるわたしたちが、赦され、イエスさまの体とされ、一つとなって今ここにある恵みに心から感謝いたしましょう。

【お祈り】

天の父なる神さま

ペンテコステの日、聖霊が弟子たちに遣わされ、イエスさまを信じる群れ、神さまの御言葉の招きによって集められた教会が誕生しました。

そして、この時代、遠くにいる者であったわたしたちをも、あなたの救いへと招いて下さり、信仰を与えて下さり、天におられる復活の主と、一つに結び合わせて下さったこと、教会の群れに加えて下さったことを、心から感謝いたします。

あなたは、わたしたちと、またその子どもにも、またまだ遠くにいるすべての者にも、この救いの約束を与えようとし、招き続けておられます。イエスさまの体であるわたしたちが、どうかその御業に用いられますように。

聖霊によって、この群れが主の御言葉を語り続け、聞き続け、交わり、祈り、聖礼典の恵みに与る中で、イエスさまご自身が救いの御業を行なって下さり、福音を前進させて下さいますように。わたしたちもまた、赦された罪人として、あなたの確かな恵みを証しすることが出来ますように。

イエスさまの御名によって祈ります。アーメン